

2026年(令和8年)の新ゴム消費予想量

この予想は、主要製品(業種)別に検討された当年の新ゴム消費予想量をもとに、当会で策定したものである。

ゴム工業での消費予想量

2025 年を振り返ると、米国の関税措置が自動車産業を中心に多くの分野に影響を与え、世界経済の不確実性が高まった。日本経済は、米関税措置の影響が心配されたものの全体としてみれば輸出が堅調に推移し、個人消費は賃金の伸びを上回る物価上昇の中でも底堅さを示した。このような中、企業業績も改善が進み設備投資が拡大した。この結果、2025 年の日本経済は実質 GDP 成長率が 1.1%程度に高まった。

関連業界については、国内自動車生産台数が販売台数の増加等により前年を上回っている。

このような状況下、主力の自動車タイヤ、工業用品ともに前年を上回り、この結果、国内ゴム工業の新ゴム消費量は、1,176.4 千トン、前年比 +1.7%と増加の見込みとなった。

なお、2026 年の新ゴム消費量は、自動車生産の減少に伴い、自動車タイヤが前年を下回ると見込み、1,163.3 千トン、前年比 -1.1%の予想である(表-1)。

表-1 ゴム工業における新ゴム消費量

	2024年 (R6年) (実績)	2025年 (R7年) (見込み)	2026年 (R8年) (予想)
消費量(千トン)	1,156.9	1,176.4	1,163.3
前年比(%)	95.4	101.7	98.9

(注)本表の消費量は 2025 年末に策定された各業種団体等の予想及び経済産業省統計の実績(1~10 月)を基にとりまとめている。

主要製品別の新ゴム消費の内訳は、表-2のとおりである。

表-2 主要製品別の2025年の新ゴム消費見込みと2026年の消費予想

(単位:トン)

製品別	2024年 (R6年) (実績)		2025年 (R7年) (見込み)		2026年 (R8年) (予想)	
	前年比	%	前年比	%	前年比	%
タイヤ類	939,760	95.7	955,110	101.6	939,130	98.3
自動車タ・チ	925,570	95.6	940,380	101.6	923,450	98.2
その他のタイヤ類	14,190	102.5	14,730	103.8	15,680	106.4
工業用品類	200,110	94.4	205,070	102.5	207,950	101.4
ゴムベルト	14,430	87.8	13,580	94.1	13,910	102.4
ゴムホース	31,900	94.1	32,790	102.8	32,840	100.2
その他の工業用品	153,780	95.1	158,700	103.2	161,200	101.6
その他製品類	17,030	95.8	16,220	95.2	16,220	100.0
ゴム履物類	790	92.9	690	87.3	630	91.3
その他のゴム製品	16,240	96.0	15,530	95.6	15,590	100.4
ゴム製品計	1,156,900	95.4	1,176,400	101.7	1,163,300	98.9

(注)①タイヤ類はJATMA統計による。「自動車タ・チ」には運搬車タ・チ、フラップ・リムバンドを含み、

「その他のタイヤ類」には更生タイヤ用練生地(経済産業省統計)を含む。

工業用品類およびその他製品類は経済産業省の生産動態統計をベースとし、その他製品類の
「その他のゴム製品」には、当会のゴム引布製品の統計を含めている。

② 工業用品類のうち「その他の工業用品」は、防振ゴム、各種パッキン、スポンジ製品、ゴム板、
ゴムロール、防舷材、ゴムライニング等とする。

③ その他製品類のうち「ゴム履物類」は、ゴム底布靴、総ゴム靴等とし、「その他のゴム製品」は
運動競技用品、医療衛生用品のほか、ゴム手袋、ゴム引布、家庭用品、事務用品等とする。

主要製品別の当年の新ゴム消費予想の内訳:

(1) タイヤ類: 939,130 トン(前年比 98.3%)

○ 自動車タイヤ・チューブ: 923,450 トン(前年比 98.2%)

品目/用途	予想	要因
新車用	➡	・乗用車用、小型トラック用、トラック・バス用の各用途とも若干の減少
市販用	➡	・夏用、冬用ともに、ほぼ前年並み
輸出用	➡	・自動車輸出が減少し、前年を下回る

○ その他のタイヤ類: 15,680 トン(前年比 106.4%)

品目/用途	予想	要因
更生タイヤ	➡	・環境負荷軽減と経済性の両面で、引き続き需要が増加

(2) 工業用品類: 207,950 トン(前年比 101.4%)

○ ゴムベルト: 13,910 トン(前年比 102.4%)

品目/用途	予想	要因
コンベアベルト	➡	・国内向けは、取替え需要が順調 ・輸出向けは、鉱山需要等が回復
伝動ベルト	➡	・内需は前年並み、輸出も海外景気の不透明感はあるも増加を見込む

○ ゴムホース: 32,840 トン(前年比 100.2%)

品目/用途	予想	要因
自動車用	➡	・四輪車生産の米国仕向け分の減少を他地域で補い、微増
高圧用	➡	・土木建設機械向けは、北米・欧州で金利高の影響緩和、国内は安定した公共投資により横ばい ・工作機械向けは、人手不足による省人化・自動化投資や半導体関連需要が堅調
その他用	➡	・一般汎用ホースや産業用ホースの需要が安定

○ その他の工業用品: 161,200トン(前年比 101.6%)

品目/用途	予想	要因
防振ゴム	↗	・米国関税の自動車輸出への影響や国内市場の状況に懸念があるも、需要増を見込み、年間では+2.7%と予想
パッキン類	↗	・主に自動車関連で需要増加、他産業でも需要堅調 ・年間では+1.5%と予想
スポンジ製品	↗	・主力の自動車用途は生産台数次第だが、その他の関連産業を含め需要回復を見込む ・年間では+2.2%と予想
ゴムロール	↘	・製紙用はペーパーレス化で引き続き需要が減少 ・印刷用は横ばいと見込むが、景気動向による不透明感あり ・製鉄用は大手需要先の生産が前年を下回る ・年間では▲1.4%と予想
ライニング	↗	・水処理、鉄鋼、車両・船舶、化学工業用(ソーダ工業)は減少も、化学工業(その他)や化学機械装置・電力向けで需要が増加 ・年間では+3.0と予想

(3) その他製品類: 16,220トン(前年比 100.0%)

○ ゴム履物類: 630トン(前年比 91.3%)

品目/用途	予想	要因
ゴム履物	↘	・原材料価格の高騰、円安・物価高が継続し、需要減少

○ その他のゴム製品: 15,590トン(前年比 100.4%)

品目/用途	予想	要因
医療衛生用品	↗	・安定的に推移し、横ばい
運動競技用品	↗	・野球ボールは2026年のWBC特需や競技者の新規増加による需要増を見込む ・ゴルフボールは安定した需要により、横ばい ・円安継続でボールの海外出荷が増加
ゴム手袋	↘	・家庭向けは節約志向により炊事用が減少 ・作業用は2次産業で工場稼働の不透明感があり弱含み ・使い捨ては海外品や流通在庫が充足、単価が下落している医療用も含め増加見込めず ・年間では若干の減少

(付)ゴム工業における天然ゴムと合成ゴムの消費割合

2026 年のゴム工業における新ゴム消費量 1,163.3 千トン(前年見込み比 98.9%)のうち、天然ゴムと合成ゴムの消費内訳は、天然ゴムが 629.3 千トン(同 98.9%)、合成ゴムが 534.0 千トン(同 98.9%)の予想である(天然ゴムの使用比率は 54.1%)(表-3)。

表-3 ゴム工業における天然ゴムと合成ゴムの消費内訳

(単位:千トン)

	2024年 (R6年) (実績)	2025年 (R7年) (見込み)	2026年 (R8年) (予想)	前年比	前年比
天 然 ゴ ム	621.6	636.4	102.4	629.3	98.9
合 成 ゴ ム	535.3	540.0	100.9	534.0	98.9
合 計	1,156.9	1,176.4	101.7	1,163.3	98.9
天然ゴムの 使用比率(%)	53.7	54.1	+0.4	54.1	±0.0

以 上

<参考①>

ゴム工業とゴム工業以外での新ゴム消費量:

	2024年 (R6年) (実績)	2025年 (R7年) (見込み)	2026年 (R8年) (予想)	(単位:千トン)
		前年比		前年比
ゴム工業	1,156.9	1,176.4	101.7	98.9
ゴム工業以外	195.5	200.9	102.8	100.2
合計	1,352.4	1,377.3	101.8	99.1

<参考②>

1. 四輪車の生産台数:

	2024年 (R6年) (実績)	2025年 (R7年) (見込み)	2026年 (R8年) (予想)
生産台数(千台)	8,235	8,348	8,253
前年比(%)	91.5	101.4	98.9

(注) 2025年の見込み及び2026年の予想台数は、
一般社団法人日本自動車タイヤ協会の見通し数字による。

2. 2026年度の主要経済指標の対前年度増減率:

実質国内総生産(GDP)	1.3
実質民間最終消費支出	1.3
実質民間企業設備投資	2.8
鉱工業生産指数	1.2
為替レート(円/ドル)	155.2

(注)「令和8年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度」
(2025.12.24閣議了解)より